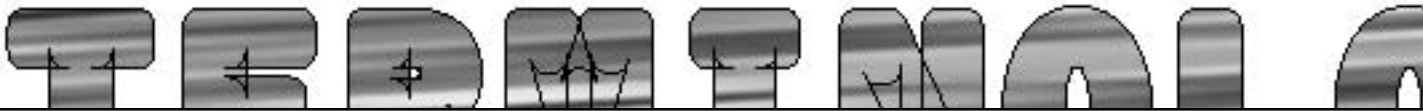


TERMINOLOGY of Internet



■ 電子マネー (electronic money)

貨幣と同等の機能を果たすデジタル情報のこと。電子的に実現した貨幣であり、支払いの手段として使用する。ただし、その価値を政府が保証しているわけではなく、使用にも強制力をとまわらないので電子通貨と呼ぶのは不適當。米ファーストバーチャル社 (FIRST VIRTUAL) などが実験的に電子マネーを発行しており、それを使用すれば確かに物品を購入できるが、あくまでも私幣であるため、仮にその発行機関が倒産するなど、与信機能を失うと、ただの紙切れならぬただのデータになる。

■ フレーム (flame)

相手を激高させたり侮辱したりすることを目的に発信する電子メールのメッセージ、あるいはUsenetニュースグループの投稿記事のこと。フレームを発端とした罵り合いをflame war (フレーム戦争ともいう) というが、ニュアンスとしては中傷合戦に近い。また、Netscape2.0から追加された機能として、1つのウェブページをそれぞれ分割してブラウズできるフレーム (frame) という用語もある (「flame」とは意味もスペルも異なる)。



Netscape2.0のフレーム (frame) 機能

■ 電腦空間

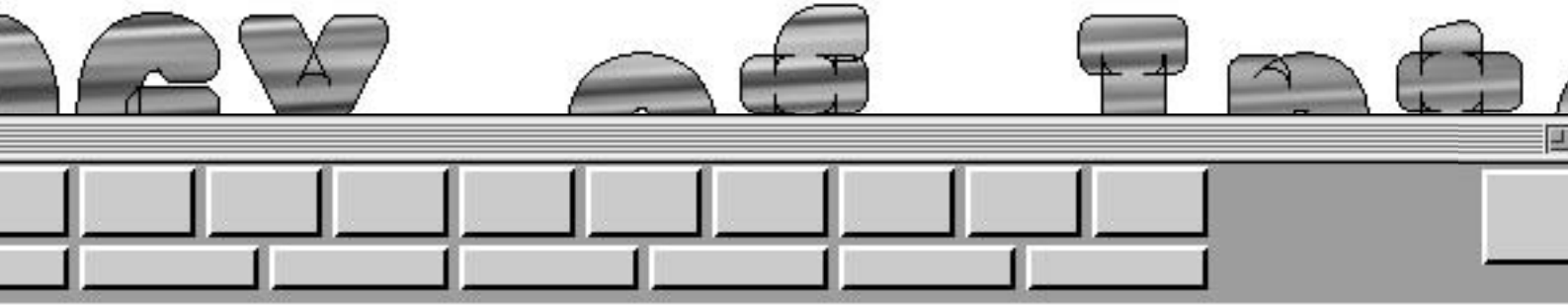
ネットワークが拡大する様子、あるいはウェブページにリンクが張り巡らされる様子を脳内の神経になぞらえて言い表した言葉。サイバースペース (cyber space) を補完的に解説する用語としてよく使われている。精神活動が通信ネットワークによって代替されてしまう気味悪さをこの用語から感じる場合は、「情報空間」という語に置き換えても文脈上での違いはあまり生じない。電腦とは、もともと computer (コンピュータ) の中国語訳からの借用。

■ ヒット数

利用者がウェブページにアクセスした内容は、サーバー側にアクセスログとして記録されている。各ページの構成要素である画像やボタンが読み込まれるたびにログは増加するが、一般的にはその件数がヒット数あるいはアクセス数として発表されているようだ。たとえば、ボタンが10個あるページにアクセスすると、ボタンの画像ファイル10個分とそのページのHTMLファイル1個分の合計11行が記録され、この行数をヒット数としている。したがって、そのページを訪問した回数とは一致しない。ただし、一般的に視聴率が利用者側で測定した結果の推測値であるのに対し、ヒット数はサーバー側で実際に測定した結果を示していること、またソフトウェアを使ってアクセスログを集計したり分析したりすれば、アクセスの内容を、時間帯別、年月日別、国別、アクセスしたホスト別はもちろん、ログファイルの行数ではなく、ページ単位でカウントすることもできるため、市場調査の有力なデータとして注目されている。ただ現在の方法ではページの構成によってカウント数にばらつきが出るため、ホームページがアクセスされた回数をアクセス数、ウェブページの場合をヒット数とすることが一部で検討されている。ヒット数やアクセス数の多少に関心が集まるのは当然としても、単に回数を数えるのではなく、どのページをどのくらいの時間、どのような順序でアクセスしたかを調べることもユーザーの趣向を知るうえで欠かせない。

今回は電子マネーを取り上げましたが、不十分なこともあるかと思えます。ご意見やご要望をお待ちしています。

E-mail to : ip-term@impress.co.jp



■ ウェブページ (Web page)

WWW (Web) サーバーに格納されているHTML文書の基本構成単位。ページと略していることもある。ホームページという用語がもともとの意味から離れ、サーバーやサイト、場合によってはインターネットの意味で使用されていたり、またHTML文書にはVRMLなど別の要素が付加され、実体との間に乖離が生じ始めていることから、両者を使って文書の構成要素を的確に指し示すことが難しくなっている。この用語 (ウェブページ) は総称としても使え、指し示す対象が幾分幅広く、たとえば「インプレス社のサーバーには用語解説のウェブページはない」といったようにホームページであるのかどうか不明な場合でも言い表すことができる。

■ #【シャープ】

電子メールのメッセージの行頭に置くことで、その文が独り言に近く、若干のためらいを感じていることを相手に伝えるための記号。日本に特有の用法であるのか、またある文化的背景を共有するもの同士の符丁であるのかは不明であるが、見かけることが多い。例えば、次のように使われている。

はじめまして。こんにちは。

現在、インターネットマガジン編集部で「インターネット用語解説」のコーナーを担当しています。

#より充実した誌面になるよう、がんばりたいと思います。
#インプレス刊『インターネット用語辞典』もよろしく。

#を使用した電子メールの例

■ 電子財布 (electronic wallet)

電子マネーを手許で保管するための記録媒体のこと。電子ウォレットとも呼ばれ、現在はパソコンやスマートカードが実験的に使用されている。電子財布に記録され、すぐに支払いに使える状態にある電子マネーが電子現金ということになる。持ち運びを考慮すると、スマートカードが有力な候補であると思われるが、スマートカードで実現した電子財布は機能的には汎用プリペイドカードに近い。スマートカード (smart card) とはマイクロコンピュータやメモリーを内蔵したカードのことであり、一定の情報処理機能を備えている。

■ 視聴率

ウェブサイトの人気度を測る方法として、テレビと同様の視聴率が考えられている。インターネットの視聴率は、ユーザーのコンピュータにインストールしたソフトウェアによって、どのウェブサイトのどのウェブページにどのくらいの時間アクセスしたかを測定し、統計によって算出する。米国の市場調査会社のNPD Groupが、自社開発したPC-Meterというソフトウェアを1000世帯にインストールし、1996年1月に調査した結果では、各ブラウザにあらかじめ設定しているデフォルトのウェブサイトが視聴率の上位を占めている。そのため、従来の視聴率の概念に比べて多少の違和感が残るものの、今後ユーザーのネットサーフィンの実状を客観的に知る指標として活用されるようになるだろう。

■ After care

■ モバイルコンピューティング (mobile computing)

前号でこの用語を解説しましたが、自前のコンピュータを携帯し、そのコンピューティング環境を移動中や移動先でも利用できる点が強調されていませんでした。コンピュータの存在を意識せず、どこでも使用できるのが理想ですが、これは遍在コンピューティング (ubiquitous computing) として、まだ構想の段階にとどまっています。モバイルという表記も見られ、モバイルからモバイルへの移行期にあると考えられます。

■ イン트라ネット (Intranet)

「インターネットを利用した専用ネットワークの構築が可能になっている」としましたが、「専用ネットワーク」というよりも「専用のネットワーク」のほうが適切でした。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp